**ケーススタディの男性の「全体」を観る**2022.4荻野哲也

この人は、現在、どのような「病気の状態の人」なのかを観察します。

できるだけ、「全体」を観察するように心がけます。**目標は個別化することです。**

**主訴**

◎開頭手術以来のけいれん発作。**（通常医療はここだけをみる）**

**身体的症状（この人固有の特徴的な点＝個別化する）**

◎3ヶ月毎に起きるけいれん発作

◎冷たい飲み物はとても苦手で、暖かい飲み物が大好き。

◎子供の頃は喘息で毎年決まったように7月下旬の深夜1時頃に発作

◎風邪をひくとしばしば下痢と嘔吐が同時に起きる。

　そういうひどい風邪を1年に1回ペースひく。

**精神的症状（この人固有の特徴的な点＝個別化する）**

◎細かなことが気に掛かり、何でもキチンキチンとしないと気が済まない完璧主義

◎何かと先々の悪い予想をしては不安・心配になりがちである。

◎恐怖＝死ぬことと一人でいること。泥棒を異常に怖がる

◎恐怖・不安感＝現在は痙攣発作が起きたらどうしよう、倒れて死ぬのではないか？といつもひどく怖れている。その際、落ち着きを無くす。

上記のようにこの人の特徴的な症状をまとめて、全体をよく眺めてみると

・・・全体を貫くような特徴があります。**（この人固有の特徴的な点＝個別化する）**

**＜**この男性の病をまとめてみる＝**統合＞**

**◎主訴は、けいれん発作**

**◎身体的には、「周期性」という全体的特徴と上記の固有の症状がある。**

**◎精神的には、「恐怖と不安に支配されがち」であり、その際、落ち着きがなくなる。**

オルガノン§1～3、特に**§3-1～3**に沿って、考えてみましょう。

§3-1　何が癒されるべきでしょうか？（個別のケースにおいての病気の認識）

§3-2　どのようなレメディが必要でしょうか？（レメディを知る）

§3-3　選んだレメディをどのように飲めば、治癒しやすくなるのでしょうか？

　　　　（このケースの人に、レメディをどう適用して行くのが良いのか？）